



第84期 中間報告書

2010年4月1日 — 2010年9月30日

■ CONTENTS

ごあいさつ	1
連結業績ハイライト	2
事業別営業概況	3
トピックス	5
連結財務諸表	7
株式の概要	9
会社概要	10
株式についてのご案内	裏表紙

三菱ガス化学株式会社

MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

株主の皆様には日頃よりご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第84期第2四半期連結累計期間（2010年4月1日から2010年9月30日まで）の事業活動についてご報告申し上げます。



代表取締役社長
酒井 和夫

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、景気を持ち直しの動きが続いたものの、株式市場の低迷や円高の進行に加え、世界経済の下振れが懸念されるなど、年央以降に先行き不透明感が強まってまいりました。

当社グループにおいては、輸出比率の高い事業が円高の影響を受けましたが、旺盛なアジア需要に支えられて全般に販売数量が回復したことに加え、市況の上昇もあり、収益が改善しました。一方、前期から堅調に推移してきた半導体向け製品の一部には、第2四半期の後半から減速感がみられる状況となりました。

このような事業環境の下、当社グループは、中期経営計画「MGC Will 2011」の基本方針に基づく各種施策を実施するとともに、販売数量の拡大やマージンの確保などに取り組んでまいりました。

この結果、当社グループにおける当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,270億円（前年同期比462億円増（25.6%増））、営業利益126億円（前年同期比137億円改善）、経常利益172億円（前年同期比198億円改善）となりました。しかし、投資有価証券評価損や資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額を含め90億円の特別損失を計上した結果、四半期純利益は63億円（前年同期比88億円改善）となりました。

株主の皆様には引き続きご支援、ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2010年12月

中期経営計画 「MGC Will 2011」

【グループビジョン】

MGCグループは全ての事業活動においてCSRの実践を徹底し、グローバルな舞台で、「独自技術に立脚した特色と存在感のある優良化学会社」として、持続的成長を目指します。

【基本方針】

1. コア事業の一層の強化・拡充
2. 新規製品の創出と育成の加速
3. 持続的成長を支える〈質〉の向上

【2011年度 目標連結財務指標】

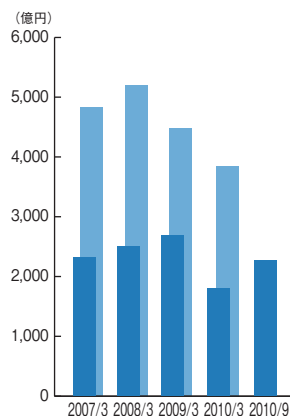
売上高	5,500 億円
営業利益	400 億円
経常利益	500 億円
ROA (総資産経常利益率)	9.0 %
D/Eレシオ	0.6 以下

連結業績ハイライト

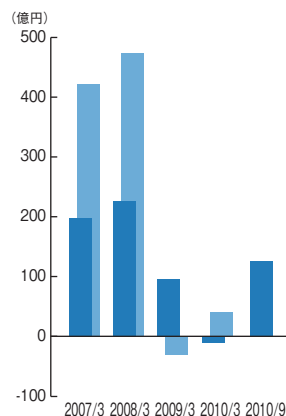
(単位：百万円)

	当第2四半期 (累計) 2010年4月1日～ 9月30日	前第2四半期 (累計) 2009年4月1日～ 9月30日	前期 2009年4月1日～ 2010年3月31日
売上高	227,054	180,770	384,528
営業損益	12,616	△1,101	4,090
経常損益	17,276	△2,592	7,365
四半期 (当期) 純損益	6,392	△2,433	5,827
1株当たり四半期 (当期) 純損益 (円)	14.14	△5.38	12.89

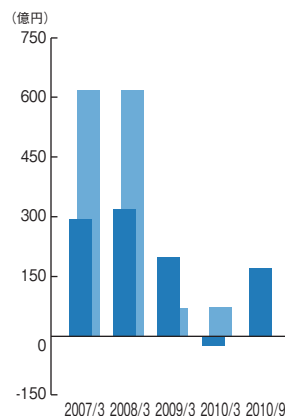
■ 売上高



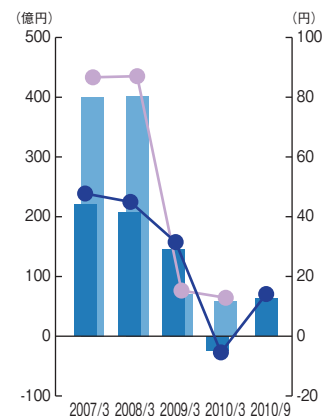
■ 営業損益



■ 経常損益



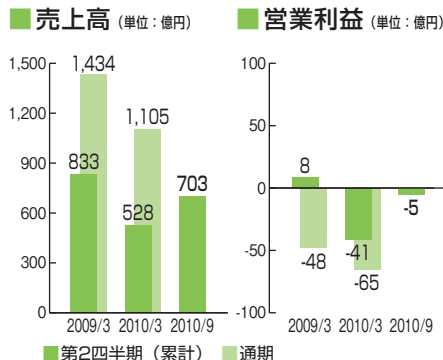
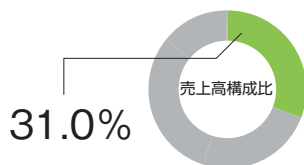
■ 四半期(当期)純損益 / 1株当たり四半期(当期)純損益



■ 第2四半期 (累計) ■ 通期 ● 1株当たり四半期純利益 ● 1株当たり当期純利益

事業別営業概況

(自2010年4月1日 至2010年9月30日)



天然ガス系化学品事業

主要製品

メタノール、アンモニア、メチルアミン、MMA、多価アルコール、コエンザイムQ10 等

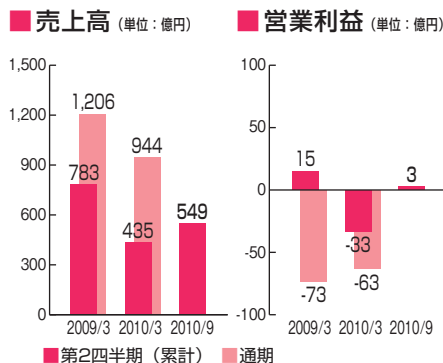
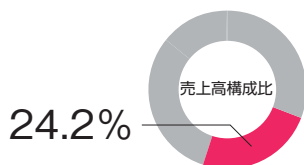
メタノールは、ブルネイとベネズエラの新規プラント稼動により販売数量が増加し、また平均販売価格が前年同期を上回った結果、増収となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、一般的な販売数量の増加に加え、需給逼迫を背景としてMMAやネオペンチルグリコールの市況が上昇したことなどから、売上高、損益ともに改善しました。

酵素・補酵素類は、コエンザイムQ10の損益が若干改善したものの、収益は低調に推移しました。

天然ガスその他のエネルギー販売は、原油販売価格の上昇により、増益となりました。

以上の結果、売上高は703億円、営業損失は5億円となりました。また、海外メタノール生産会社の業績が改善し、持分法利益を50億円計上した結果、経常利益は37億円となりました。



芳香族化学品事業

主要製品

メタキシレン、メタキシレンジアミン、MXナイロン、芳香族アルデヒド、高純度イソフタル酸 等

特殊芳香族化学品は、メタキシレンジアミン、MXナイロン、芳香族アルデヒドなどにおいて、円高の影響を受けたものの、欧米を中心とする海外需要が好調で、売上高、損益ともに改善しました。

高純度イソフタル酸は、中国を始めとするアジア地域でPETボトル向け需要が拡大しましたが、円高や市況の低迷により、損益は低調に推移しました。

以上の結果、売上高は549億円、営業利益は3億円、経常損失は3億円となりました。

機能化学品事業

主要製品
過酸化水素、電子工業用薬品、
ポリカーボネート樹脂、ポリアセタール樹脂 等

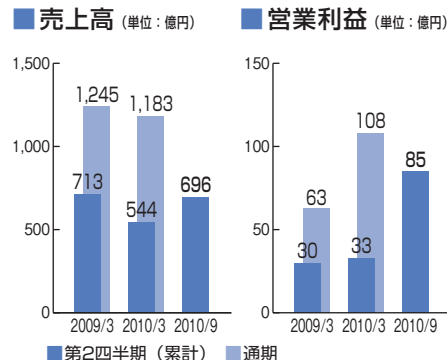
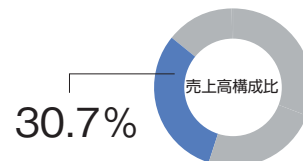
工業用無機薬品類は、紙パルプや工業酸化剤向けに過酸化水素の販売数量が増加したことから、収益が改善しました。

電子工業用薬品類は、半導体向けを中心に需要が好調で、海外子会社を含め、増収増益となりました。

エンジニアリングプラスチックは、ポリカーボネート、ポリアセタールを始めとしてアジアの好調な需要に牽引され、売上高、損益ともに前年同期を上回りました。

ポリカーボネートシート・フィルムは、フラットパネルディスプレイ向けフィルムの需要が前期に引き続き好調で、増収増益となりました。

以上の結果、売上高は696億円、営業利益は85億円となりました。また、持分法利益を8億円計上した結果、経常利益は88億円となりました。



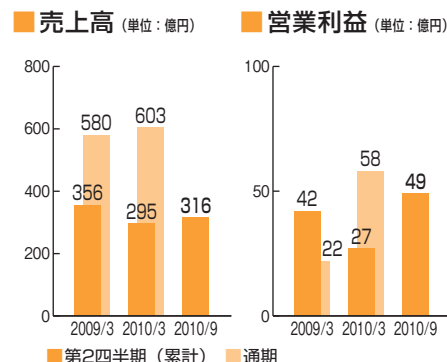
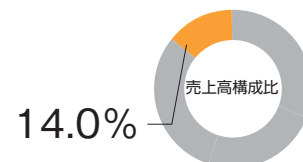
特殊機能材事業

主要製品
プリント配線板用材料、脱酸素剤 等

半導体パッケージ向けBT材料は、第1四半期に好調に推移した携帯電子機器・デジタル家電用途の需要が第2四半期後半から減速しましたが、販売数量が前年同期比で増加したことや、コスト削減効果により、増収増益となりました。

「エージレス®」等の脱酸素剤は、主用途である国内食品分野において猛暑の影響を受けましたが、その他用途が堅調に推移したこともあり、前年同期をやや上回る収益となりました。

以上の結果、売上高は316億円、営業利益は49億円、経常利益は49億円となりました。



その他の事業

不動産業など

その他の事業の売上高は3億円、営業利益は1億円、経常利益は9億円となりました。

1

企業広告「技術百化」にカラー版が登場

今春から新しい企業広告を展開しています。

MGCの主要事業・技術を色彩豊かに表現したカラー広告を紹介します。



「終わらない挑戦がある。限りない技術が生まれる。」
数々の挑戦が生み出した多種多様な技術、
幅広い分野にわたる事業。
MGCの挑戦は続きます。

■ メタノール編

「海外でメタノール生産を。30年前の挑戦は、いまビジネススタンダードとなった。」MGCは世界有数のメタノールサプライヤーです。



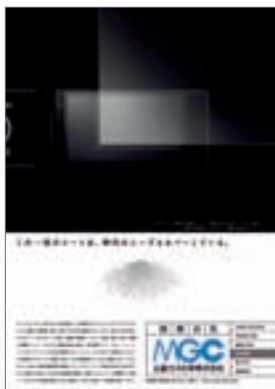
■ 超強酸技術編

「超強酸HF-BF₃を使いこなしたことが、すべてのはじまりだった。」工業利用は不可能と言われたHF-BF₃。現在のMGCを支える技術です。

■ 過酸化水素編

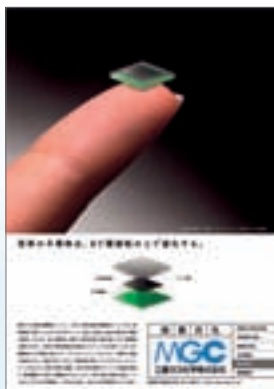
「昭和8年、紙の漂白からはじまった過酸化水素事業は、いまエレクトロニクス産業の最先端も支えている。」用途開発もメーカーの重要な課題です。





■ ユーピロン®シート編

「この一枚のシートは、時代のニーズもカバーしている。」ポリカーボネートメーカーのMGCは、シートの加工技術をもリードしています。



■ BT積層板編

「世界の半導体は、BT積層板の上で進化する。」MGCは国内最古参の積層板材料メーカー。BT積層板は半導体サブストレートの代名詞です。



■ 品質保持技術編

「食品の鮮度保持から、品質保持のトータルソリューションへ。MGCの挑戦は続く。」脱酸素剤エージェレス®に代表される品質保持技術の紹介です。

2 ブルネイとベネズエラでメタノールの新プラントが稼動

2010年4月にブルネイの合併会社で年産85万トン、7月にベネズエラの合併会社で年産85万トンの第2プラントが稼動を開始しました。ベネズエラは、第1プラントと合わせて年産150万トン体制になりました。サウジアラビアの合併会社の年産500万トンと合わせた生産能力は年産745万トンになり、3拠点の合併事業を通じて、メタノール事業における世界でのプレゼンスをさらに高めてまいります。

メタノールは多くの川下製品を持つ基礎化学品の1つで、主にホルマリン、酢酸などの化学用品用途の原料として使用されています。また、バイオディーゼルやDME（ジメチルエーテル）など、幅広い用途での利用拡大も見込まれています。現在の世界需要は年間約42百万トンですが、今後も年率4-5%の成長が見込まれています。



ブルネイのメタノールプラント

連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

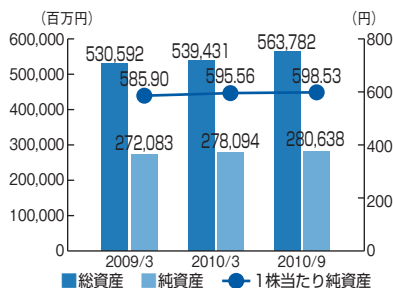
（単位：百万円）

科 目	当第2四半期 (2010年9月30日現在)	前期 (2010年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	231,649	218,082
現金及び預金	38,984	27,560
受取手形及び売掛金	107,281	104,086
有価証券	6,668	10,016
たな卸資産	65,402	62,005
その他	13,311	14,412
固定資産	332,132	321,348
有形固定資産	176,093	161,334
建物及び構築物	51,351	49,683
機械装置及び運搬具	72,781	67,253
その他	51,959	44,397
無形固定資産	5,166	4,658
投資その他の資産	150,873	155,356
投資有価証券	125,674	130,471
その他	25,198	24,885
① 資産合計	563,782	539,431

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期 (2010年9月30日現在)	前期 (2010年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	187,895	160,297
支払手形及び買掛金	62,307	56,486
短期借入金	73,865	74,004
1年内償還予定社債	20,000	—
その他	31,723	29,805
固定負債	95,247	101,038
社債	—	20,000
長期借入金	72,665	71,394
その他	22,581	9,643
② 負債合計	283,143	261,336
(純資産の部)		
株主資本	295,501	292,048
資本金	41,970	41,970
資本剰余金	35,591	35,590
利益剰余金	225,848	222,394
自己株式	△7,909	△7,905
評価・換算差額等	△24,949	△22,835
その他有価証券評価差額金	2,174	△1,013
繰延ヘッジ損益	3	△1
土地再評価差額金	192	192
為替換算調整勘定	△27,320	△22,013
少数株主持分	10,087	8,881
③ 純資産合計	280,638	278,094
負債・純資産合計	563,782	539,431

■ 総資産／純資産／1株当たり純資産



① 資産合計

投資その他の資産が減少したものの、現金及び預金、有形固定資産が増加したことから、前期末に比べ増加しました。

② 負債合計

買掛債務やリース債務の増加や資産除却債務の計上などにより、前期末に比べ増加しました。

③ 純資産合計

その他有価証券評価差額金の増加などにより、前期末に比べ増加しました。

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期（累計） （2010年4月1日から 9月30日まで）	前第2四半期（累計） （2009年4月1日から 9月30日まで）
4 売上高	227,054	180,770
売上原価	186,290	156,272
販売費及び一般管理費	28,146	25,600
5 営業損益	12,616	△1,101
営業外収益	9,516	4,195
営業外費用	4,856	5,686
6 経常損益	17,276	△2,592
特別利益	—	183
特別損失	9,073	1,169
税金等調整前四半期純損益	8,202	△3,579
法人税等	1,174	△1,352
少数株主利益	635	207
四半期純損益	6,392	△2,433

4 売上高

全般に販売数量が回復したことに加え、市況の上昇もあり、増加しました。

5 営業損益

販売数量の増加やマージンの改善などにより、大幅に改善しました。

6 経常損益

海外メタノール生産会社の業績が改善し、持分法利益（営業外収益）が増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期（累計） （2010年4月1日から 9月30日まで）	前第2四半期（累計） （2009年4月1日から 9月30日まで）
税金等調整前四半期純損益	8,202	△3,579
減価償却費	13,830	13,689
持分法による投資利益	△7,760	△2,475
持分法適用会社からの 配当金の受取額	3,802	4,326
運転資金等	4,951	△5,011
法人税等の支払額または還付額	△1,393	5,115
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,632	12,066
設備投資資金等	△11,530	△14,972
投融資資金等	△1,643	△702
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,174	△15,674
借入金・社債増減額等	1,088	△4,971
配当金支払額	△2,227	△3,834
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,138	△8,805
現金及び現金同等物に係る換算差額	564	32
現金及び現金同等物の減少額	7,884	△12,381
現金及び現金同等物期首残高	36,048	53,065
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増加額	469	814
現金及び現金同等物の四半期末残高	44,402	41,498

株式の概要

(2010年9月30日現在)

発行可能株式総数 984,856,000株

発行済株式の総数 483,478,398株

株主数 32,620名

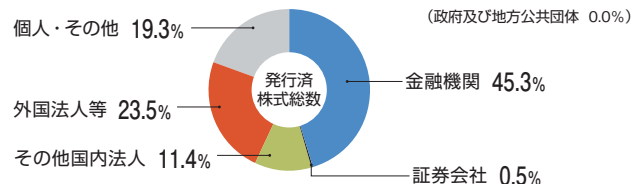
上場取引所 東京証券取引所第一部（証券コード：4182）

大株主

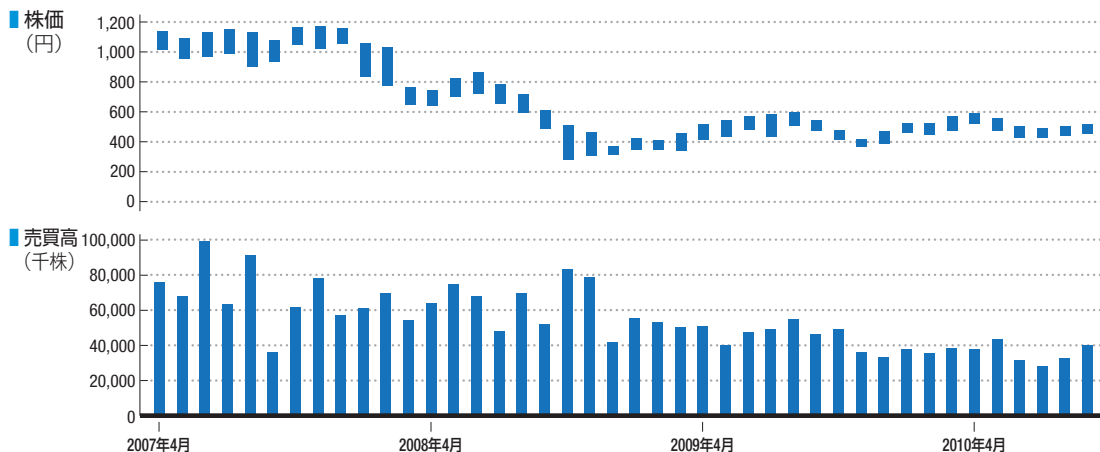
株主名	持株数（千株）	出資比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	31,401	6.9%
日本生命保険相互会社	21,452	4.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	21,347	4.7%
明治安田生命保険相互会社	16,795	3.7%
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,611	3.0%
三菱UFJ信託銀行株式会社	11,686	2.6%
農林中央金庫	10,053	2.2%
旭硝子株式会社	9,671	2.1%
株式会社損害保険ジャパン	8,564	1.9%
東京海上日動火災保険株式会社	8,468	1.9%

(注) 1. 当社は自己株式を31,451千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 出資比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株価等の状況



会社概要

(2010年9月30日現在)

社名 三菱ガス化学株式会社
(登記商号：三菱瓦斯化学株式会社)
MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC.

資本金 419億7千万円

従業員数 2,361名 (連結：5,145名)

本社所在地 〒100-8324
東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 三菱ビル

事業所 営業所：大阪支店
研究所：東京テクノパーク（東京研究所、
MGC分析センター）、新潟研究所、
平塚研究所

創業 1918（大正7）年1月15日

設立 1951（昭和26）年4月21日

工場：新潟工場、水島工場、四日市工場
山北工場、鹿島工場

役員	代表取締役 会長	小高英紀	取締役 常務執行役員	水谷 誠	執行役員	小野重信	監査役 [常勤・社外]	野口一英
	代表取締役 社長	酒井和夫	取締役 常務執行役員	織作正美	執行役員	河 邦雄	監査役 [常勤]	上松正次
	代表取締役 専務執行役員	山崎慶重			執行役員	山村裕紹	監査役 [常勤]	川上邦彰
	代表取締役 専務執行役員	畑 仁	執行役員	酒井幸男	執行役員	近藤 治	監査役 [非常勤・社外]	田口 弥
	取締役 常務執行役員	上石邦明	執行役員	高橋秀之	執行役員	村井修一	監査役 [非常勤・社外]	二瓶好正
	取締役 常務執行役員	宮内 雄	執行役員	杉田克彦	執行役員	稲政顕次		
	取締役 常務執行役員	大矢邦夫	執行役員	渡邊哲志	執行役員	林 勝茂		
	取締役 常務執行役員	倉井敏磨	執行役員	山根祥弘	理事	辻 欣哉		

連結子会社（38社）

木江ターミナル(株)
(株)東京商会
日本サーキット工業(株)
日本パイオニクス(株)
(株)日本ファインケム
菱江化学(株)
菱和エンタープライズ(株)
MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE. LTD.
エレクトロテクノ(株)
海洋運輸(株)
エーアンドシー(株)
東洋化学(株)
MGCフィルシート(株)

永和化成工業(株)
三永純化(株)
MGC PURE CHEMICALS AMERICA, INC.
THAI POLYACETAL CO., LTD.
MITSUBISHI GAS CHEMICAL AMERICA, INC.
菱陽商事(株)
P.T.PEROKSIDA INDONESIA PRATAMA
共同過酸化水素(株)
国華産業(株)
フドー(株)
(株)フドーテクノ
米沢ダイヤエレクトロニクス(株)
エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカル(株)

MGC ADVANCED POLYMERS, INC.
MGCファイナンス(株)
太陽産業(株)
ポリオールアジア(株)
日本バイオ(株)
MGC PURE CHEMICALS SINGAPORE PTE. LTD.
巨菱精密化学股份有限公司
菱天(南京)精細化工有限公司
菱優工程塑料(上海)有限公司
蘇州菱蘇過酸化物有限公司
岩井海運有限会社
KSK (PANAMA) CORP.

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会権利行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL： http://www.mgc.co.jp/ir/public_notices/
1単元の株式数	1,000株
株主名簿管理人 特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 (0120) 232-711 (フリーダイヤル)

当社では、最新のIR情報のほか、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を、ホームページを通して発信しています。



ホームページ：<http://www.mgc.co.jp>

単元未満株式の買取制度・買増制度のご案内

当社は単元株制度を採用しており、単元未満（1,000株未満）の当社株式につきましては、株式市場で売買を行うことができません。

そのため、単元未満株式につきましては、次の2つの制度をご用意しております。

- 1) 単元未満株式を当社に買取請求することにより売却する制度（単元未満株式の買取制度）
- 2) 単元株式数に不足する株式を当社から買い増すことにより、単元株式にする制度（単元未満株式の買増制度）

当社では単元未満株式の整理をしていただきやすくするため、両制度のご利用にあたり頂戴しておりました手数料を、2010年6月より無料といたしました。この機会に、ぜひご利用をご検討ください。

なお、本制度の内容ならびにお手続方法の詳細は、右記のお問い合わせ先までご連絡ください。

(注) このご案内は、単元未満株式の買取・買増請求を強制するものではありません。

株式に関するお問い合わせ先

- 1) 証券会社等の口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
お取引の証券会社等にお問い合わせください。

(注) なお、支払期間経過後の配当金支払、郵送物の発送に関するご照会については、下記の特別口座の場合の連絡先をご利用ください。

- 2) 特別口座に記録された株式に関するお問い合わせ先：
三菱UFJ信託銀行株式会社（特別口座管理機関）にお問い合わせください。

連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120) 232-711 (フリーダイヤル)

特別口座に関する手続用紙

音声自動応答電話によるご請求：

電話 (0120) 244-479 (フリーダイヤル)

インターネットによるダウンロードURL：

<http://www.tr.mufjg.jp/daikou/>